

林豊廣の錦鯉よろろず相談室

第43回

〜愛鯉家による、愛鯉家のためのコーナー〜

今回は趣向を変えて、林氏の鯉友にお集りいただき、「次に作るならこんな池」というテーマでお話をうかがいました。



林豊廣氏

約30年前から山口県・星出養鯉場の手ほどきを受けて始めた錦鯉は、飼育だけでなく、生産も手掛けている。その豊富な経験から近隣の愛好家のよきアドバイザーとして、東奔西走する忙しい毎日を送っている。

—— 今回は前回のつづきで、池の話題になります。林さんの鯉友に集まっていたいただき、「次に作るなら、こんな池」というテーマでお話を聞きました。

林 今回は超ベテランから新人さんまで出席いただきました。それぞれの池の現状と、改善したい点をご紹介しますいきましょう。

Yさん

飼育歴35年のベテランで、卓越した飼育と水管理のノウハウを持っておられます。20cm程度の当歳を80cm以上に飼育するなど、ジャンボに育てる技術は素晴らしいです。

現在、メイン池の水量は100トンですが、池底に溜まる糞の回収がやりにくく、池が大きすぎたと感じているそうです。

サブ池としては、1トンの加温水槽があります。20cm程度の当歳の飼育用です。

希望としては、池の本体に隣接した薬浴池があれば欲しいそうです。メイン池を造り変えるとしたら、60トン程度で良いけれど、3m×15mの縦長の長方形が理想で、深さは150cm程度が良いそうです。とにかく、泳いで運動するスペースを確保することが必須だからです。

Oさん

飼育歴40年近いベテランで、特に質や体形の見方には卓越しておられます。

現在3トンの池ですが、町なかなので車庫と池でいっぱいです。大きい池を造るスペースがないのが難点です。

造り変えるときの希望としては、池本体へオーバーフロー配管を設置してゴミを排出すること、底に溜まる糞の掃除が容易な構造にすることだそうです。今後は汚れを定期的に系外へ排出するシステムを模索したいとのこと。

濾過槽については、簡単に水洗する程度で良く、濾材の量は少しずつ注ぎ足して行って適量を探ることが肝心だと述べられました。汚れが溜まるので、濾材の入れ過ぎは禁物です。

Mさん

飼育歴は50年近い超ベテランです。その昔、山古志詣でに同行させていただきました。飼育技術はもとより、鑑賞眼にも卓越したものをもちです。

循環濾過方法については、底水

でしょう(笑)。

メイン池は60トンで、横6m×縦5m×深さ2mですが、深すぎで濾過槽の掃除が大変です。30歳代で造った池で、当時は足も腰も十分達者でしたが、66歳になると底抜きパイプの150Aは重く、2mは長いです。

いま造り直すとすれば、土地にスペースが十分あるので、横15m×縦3m×深さ1.5m程度にします。底抜きパイプも現在の150A一カ所を、100A三カ所にしたいです。

水脈が薄いので、濁水期は井戸二カ所と水道水で対応しています。今の井戸の深さが8mなので30m程度まで掘り下げて水脈を確保したいです。池の横の長さとも水の確保が改造のメインになるでしょう。

—— 池の形状としては、長方形が良いようですね。

林 そうです。長辺を長くすることで、たくさん運動させることが目的です。深さは150cmで十分です。あまり深いと糞の掃除が大変です。

循環よりも中間水循環の方が良く、底水は定期的に系外排出するべきとおっしゃいます。

池の形状は、水深は150cmで良いが、縦の長さは15mは欲しいとのこと。

Oさんと同じく、池本体へオーバーフロー配管を設置して、ゴミを排出したいという希望をお持ちです。また、糞の掃除に悩まされているようで、簡単な掃除方法を模索されています。

Yさん

飼育歴5年の新人さんです。メイン池は30トン、サブ池が13トンです。ともにキャンバス水槽なので、造り変えるのであればコンクリート池にしたいという希望をお持ちです。

飼育歴は浅いのですが、この

—— 池底に溜まる大きい糞の掃除には、みなさん苦勞されていますね。

林 鯉も人間と同じで、食べれば体外に糞として出します。鯉の場合沈澱槽に辿り着かない糞の姿が見えると、どうしても掃除しにくくなります。一つの糞が小さければ目には見えません。小さければ小さいほど容易に濾過槽に送られて、好気性バクテリアの餌になって浄化されて池に戻ります。

—— 糞がいかに小さく排出されるかが、水の浄化のポイントになりそうですね。

林 さらに言えば、餌が重要なです。鯉の内臓に送られた餌が速やかに細かなればなるほど吸収が良いと思います。餌を作る原料が小さくなればなるほど、少ない量で大きく育てられるのではないかと考えます。

私の婆さんが「よく噛め。百回は噛め」と言いながら、玄米を美味しそうに噛んでいたことを思い出します。「噛めば噛むほど体に良い」といつも言っていました。そんな餌が欲しいですね。

このコーナーでは、錦鯉の飼育に関する読者からの質問を受け付けております。メール、FAX、愛読者カードのいずれかで質問をお寄せください。

キャンバス水槽と濾過槽で、水道に人並みならぬ苦勞を重ねた結果、今年に入って何とか完成された飼育水になりました。現在、80〜90cm近くの鯉が15尾ほど、優雅に泳いでいます。

餌もいろいろと試されて、良い餌をより少なく与えておられ、増体が望める池になりつつあります。三好養魚場さんの「金の四季」に変えることで、鯉がみるみるうちに大きくなり、肉が付いてきました。池底に溜まる糞が見えず、ともかくにも目視できる糞が少なくなりました。だから、水もきれいになったとのこと。

強度の問題で水深が80cm程度しか確保できないことが難点です。しかし、キャンバス水槽でも大型鯉が飼育でき、品評会で優勝することができる良い実例だと思えます。ここ最近、薄飼いの大切さを実感されておられるので、飼育技術はますます向上するでしょう。

Mさん

飼育歴3年の新人さんです。Oさんと同じく、町なかなので車庫